

令和6(2024)年度 事業報告書

NPO 法人森からつづく道

I. 概要

当団体は、2016年度よりオオキトンボをシンボルとして北条地域の里地の生物多様性の保全活動に取り組んでおり、2017～2019年度と2020～2022年度の2期にわたって地球環境基金の助成によるプロジェクトを実施した。2023～2024年度は、羽化殻調査・産卵調査・水位計測を継続した。2017年からの調査の結果、オオキトンボの生活史やため池の水管理が発生に大きく関係しているなど多くの知見を得たところであるが、調査を継続して発生状況を把握するとともに、変化の要因の分析を行っている。本種の生息環境の維持のため、ため池管理者に対し、その年度の発生状況の報告とともに、生息に資するため池管理を説明し、協力を依頼している。当団体としても、ため池管理に貢献するため、堤体の草刈りに参加した。本種が最も多く発生しているため池に隣接する河野小学校の3年生を対象に、7月11日に生活史の解説とヤゴの飼育・羽化観察を、10月16日に産卵観察会を授業として実施した。さらに、本年は松山市自然環境イベントとして、市民対象の産卵観察会を11月4日に行った。また、フジテレビの取材に協力し、「地球との約束」で本種の生息状況が放映された。

2024年度は愛媛県「三浦保」愛基金環境保全・自然保護分野に、「訪ねたくなる水源の森・里づくり」を申請して採択され、松山市日浦地区において①ヒメユリの保全活動、②ミツマタの植林、③水源となっている石手川上流部の水生生物観察会を実施するとともに、④学習会「森林のリアルとポテンシャル」を開催した。

ヒメユリは4月に日浦中学校3年生の指導で同小学校1年生が播種した。その後、順調に発芽・生育し、7月に苗を鉢に移植、夏休み中は自動灌水装置を設置し、冬の間は越冬対策を行った。その結果、同校において25株が2年目を迎えた。また、同地区水口町のNPO「里山歩こう会」もヒメユリ栽培に着手し、保全体制づくりが進んだ。日浦地区での活動は、本年度が初年度であったが、地元の小中学校、NPO、公民館等の協力を得て、地域の資源を活用した活動を模索することができた。

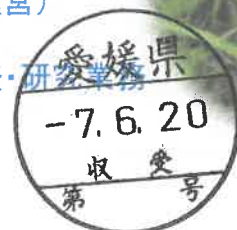
2024年度は、(株)イーエーシー(松山市)が松山市から自然環境イベント等業務を受託し、当団体は同社からの要請を受け、野外イベントとして「ライトトラップ昆虫観察会」、「オオキトンボの産卵観察会」「道後公園で野鳥観察!」「野草を味わう春散歩」を、室内イベントとして「椿クラフト」を企画・運営した。

サイエンスカフェえひめは、第42回:4月9日「まつやまコアジサシ子育て支援プロジェクトって?」(松田久司氏)、第43回:7月30日「恐竜研究入門～発掘から展示まで～」(鰐本武久氏)、第44回:2月18日「ダニの話」(石川和男氏)を実施した。

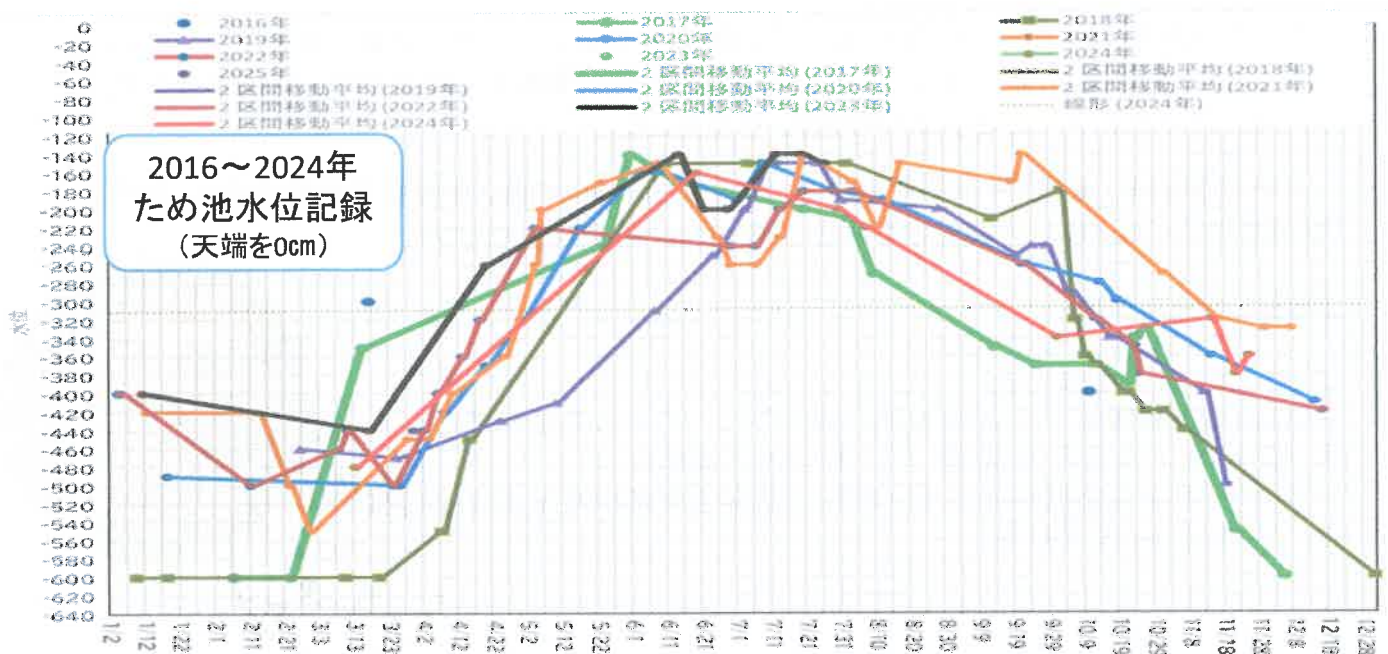
日本農業遺産「愛媛・南予の柑橘農業システム」については、愛媛県の依頼を受け、世界農業遺産申請のために、農業生物多様性調査、民俗・歴史調査などを行った。

【運営した主な事業】

- 1 オオキトンボ保全プロジェクト
- 2 サイエンスカフェえひめ
- 3 松山市自然環境イベント等業務((株)イーエーシーから受託運営)
- 4 「訪ねたくなる水源の森・里づくり(松山市日浦地区)」
- 5 「愛媛・南予の急傾斜地農業システム」農業生物多様性等調査・研究業務
- 6 その他必要とする事業

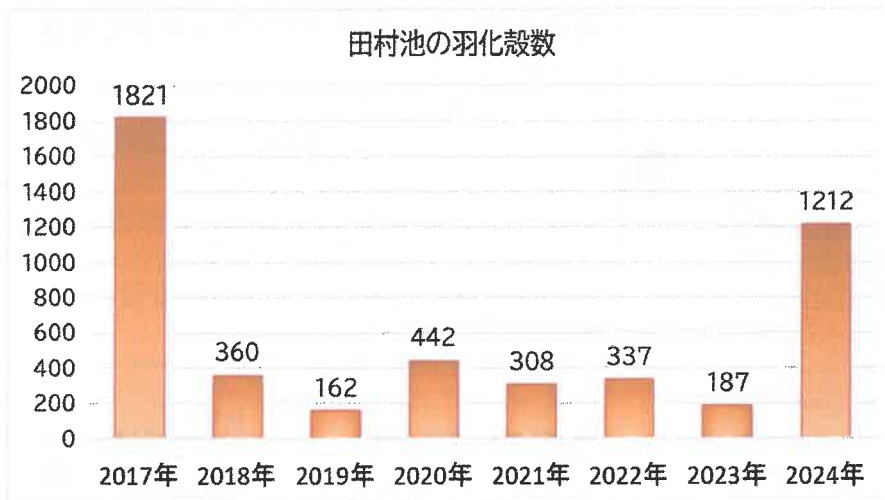


1. オオキトンボ保全プロジェクト



1. オオキトンボ保全プロジェクト

●7年ぶりに大量発生を確認



羽化殻調査では、6月上旬から8月末までの毎週水曜日に、設定した調査区においてトンボの羽化殻をすべて採取し、種別に分類して数をカウント。羽化殻は同定確認のために、こんな感じで保存しています。

上のグラフ「田村池の羽化殻数」のとおり、2017年は田村池の調査区における本種の羽化殻数は1800個を超えていたが、2018年以降は500個を下回る状況が続いていた。2018年は、法面の一部ブロック化工事の影響により、春の貯水開始が遅れたことが主な要因と推測されたが、その後も目立った回復は見られなかった。

2024年は7年ぶりに本種の発生数が多く、採取した羽化殻数が1200個に達した。その要因の特定は難しいが、前年9～11月にため池の水位の低下が順調であり、産卵が広範囲に行われたこと、ため池の貯水が3月中に開始され、水位の上昇が順調で本種の卵の孵化が進んだことなどが考えられる。

●2024年度も河野小学校3年生がオオキトンボを学習



7月11日 本種の生活史やヤゴの特徴を説明



ヤゴの実物を観察。ギンヤンマのヤゴもいて違いがわかった



10月16日 産卵の様子を観察。目の前に飛んできた！



当日は学校の了解を得てフジテレビ「地球との約束」の取材があり、後日放映された

ダニは多様な環境に生息し5万種が記載されており、食性も多様であること、身近なダニの特性などが解説され、予防等のお話もあった。

3. 松山市自然環境イベント等業務

松山市民の自然環境への意識の高揚を図り、環境保全に参画する市民を増やすことを目的とする市の自然環境イベント等業務を(株)イーエーシーが受託し、10回程度のイベントのうち、当団体が5回分について企画と講師・運営を担当した。同社は広告代理店で、イベント運営や情報発信には実績があるが、自然環境分野では経験がなく、市内の活動団体と協働で事業運営が行われた。参加募集と参加者とのやり取り、アンケート実施は市担当課と同社が担うなど、役割分担が進み、当日もイベント運営に専念することができた。担当者とのやり取りもスムーズであった。また、生きものの関係のインスタグラム記事・写真提供、りっくるだよりの原稿作成も本業務の一環として担当した。

イベント名/●講師	実施日/場所	参加数
ドキドキ夜の昆虫観察 ライトトラップ@日浦 ●武智礼央、橋越清一	8月3日(土) 日浦公民館～水口町段畑	19名 (小学生7名)
希少アカトンボ、オオキトンボの産卵を観察しよう！ ●武智礼央、豊田康二	11月4日(土)10:00～12:00 北条ふるさと館～田村池	31名 (小学生15名)
道後公園で野鳥観察！ ●橋越清一	1月26日(日)9:45～11:45 子規博物館～道後公園	23名 (小学生5名)
椿神社で椿クラフト ●豊田康二、松井宏光	2月22日(土)10:00～12:00 椿神社	13名 (小学生1名)
野草を味わう春散歩 ●松井宏光、黒河由佳	3月16日(日)10:00～13:30 日浦地区、水口集会所	19名 (小学生6名)



8/3 ライトトラップ



11/4 オオキトンボ産卵観察会



1/26 道後公園で野鳥観察！



2/22 椿神社で椿クラフト



3/16 野草を味わう春散歩



4. 「訪ねたくなる水源の森・里づくり(松山市日浦地区)」

松山市日浦地区は、石手川ダムの水源の森を有し、希少なヒメユリや水生生物が生息するなど、保全すべき自然環境があり、環境学習・体験の適地である。しかし、人口減少により里地・森林の管理が進まず、イノシシやシカの獣害の拡大が懸念される状況である。そこで、同地区の里地～里山～森林の整備に県民が関われるプロジェクトを立ち上げることで、水源の森への関心を高め、水の涵養、土砂くずれ等の低減、生物多様性の保全など、里地や森林が多面的機能を維持・回復することを目指すプロジェクトを計画し、愛媛県「三浦保」愛基金の助成を受け、活動を開始した。

同地区の地元NPO「里山歩こう会」が子どもたちに農業体験を提供したり、サクラの植樹を行うなど、熱心に活動を行っているため、連携して事業を展開した。ヒメユリの保全活動は、日浦小中学校が担ってきたが、先生の異動によってノウハウの継承が困難であったところ、本事業により、当団体の支援と「里山歩こう会」による育苗を開始し、地域での保全体制が進んだ。

2024年は初年度であることから、同地区の関係者との関係づくりや地域資源の把握に注力し、以下の活動を行った。

(1) ヒメユリ保全活動

月/日	内容	参加者	概要
4/9	ヒメユリの保全状況の把握	日浦中学校、松山市環境指導課2名、里山歩こう会松野氏、松井、黒河	日浦中学校を訪問して確認したところ、昨夏に開花して結実した種は種まきに十分な数があるが、開花した株の球根の保存状況が良くなく、残存は3個程度。松山市の希少種保全担当課にも現状把握のために参加していただいた。
4/25	種まき	日浦中3年9名、日浦小1年6名、松野氏、松井	種まきは同小・中学校の恒例行事。数量としては、コンテナ5個分（1個に30程度播種）となった。地元NPO「里山歩こう会」がヒメユリの種を分けてもらい、学校と並行して苗づくりに取り組むこととなった。
5/17	発芽状況の確認	日浦中・日浅先生、松野氏、松井、黒河	日浦中では、5/15に発芽が確認された。1～2cm程度の1枚葉が出ている。コンテナをラップで覆って保湿・保温を施したことが効果的であった。水やりは3日に1回程度、ラップの水滴がなくなったら行う。
6/7	生育状況の確認	日浦中・日浅先生、松野氏、松井、黒河	気温が上昇してきたため、育苗のコンテナを体育館西側から風通しがよい東側に移動させた。葉はまだ1枚。
7/5	生育状況の確認	日浦中・日浅先生、松野氏、松井、黒河	葉は2枚・3枚の苗が増えた。
7/17	苗を鉢に移植	日浦中3年生7名、日浅先生、松野氏、松井、黒河	コンテナから1鉢に苗を1本ずつ移植した。62鉢となった。作業時間はちょうど1時間程度であった。鉢と用土の一部は学校にあるものを使用した。数日後、移植した鉢の2割程度は根の活着が悪く、枯れてしまったとの連絡があった。
7/19	四国カルストでヒメユリ生育環境の観察	当団体会員5名、松野氏	大野ヶ原の源氏ヶ駄馬周辺を観察し、ヒメユリの開花を確認した。石灰石の岩場に広がる30～50cm程度の草丈の草原に点在し、50cm程度の高さに生育して花を付けていた。春までは草原の草丈は低いため、それに先立つように茎をのぼしているようである。
7/24	自動灌水装置および寒冷紗の設置	松井	日浦中では校区外から通学する生徒が大多数で夏休み中の水やりが難しいため、自動灌水装置を設置した。また、強い日差しをやわらげるために寒冷紗を設置した。
8/18	自動灌水装置の点検・補修	松井、松野氏	自動灌水装置の作動を確認し、補修を行った。苗は葉の数は増えていないが、生育状況は順調である。
9/5	寒冷紗の取り外し	松井、松野氏	日の当たる時間が少なくなったため、寒冷紗を取り外した。
10/5	苗の成長状況確認	松井	生育状況には大きな変化なく、順調である。
11/19	四国カルストでヒメユリの種を採取	松井、黒河	本年、日浦中ではヒメユリの開花がなく、種ができなかったため、四国カルストのヒメユリの種を採取した。令和7年4月の種まき用。
12/24	苗設置場所移動、手入れについて打合せ	日浦中・日浅先生、松野氏、松井、黒河	冬場になり、地上部が枯れているが、比較的寒さには強いので鉢は戸外に設置のままとし、もみ殻を鉢に入れ、乾燥したら水を少し与える管理を行う。

4.「訪ねたくなる水源の森・里づくり」

(2)ミツマタ植林

【日 時】令和6年11月12日(火)10:30～15:00

【場 所】日浦地区 水口集会所、森林、竹林、耕作放棄地

【講 師】豊田信行氏(森林環境管理学リカレントプログラム講師)

【参加者】松野氏(里山歩こう会)、当団体関係者7名

ミツマタ植林の場所として想定していたスギ林は、間伐作業の時期が確定しないことから、耕作放棄地となっている畑に所有者の了解を得て行った。実施にあたっては講師を招聘し、ミツマタ植林と森林整備の考え方と技術指導、竹林の拡大防止方法などについて受講した。その後、日浦地区内で竹林をクヌギ林に転換した場所を視察し、ミツマタの苗木80cm4本、30cm8本を植林した。



7/5 ヒメユリの苗



7/17 苗を鉢に移植

(3)石手川上流 川の生きものの観察会

【日 時】令和6年8月24日(土)10:00～12:00

【場 所】日浦公民館集合～東川町納涼台周辺の石手川

【講 師】松田久司氏

(かわうそ復活プロジェクト、愛媛県環境マイスター)

【運 営】松野氏(里山歩こう会)、当団体3名、愛大理学部生2名

【参加者】27名(運営者含む)

実施要領・注意事項の説明の後に川に入り、生きものを探しを行った。川から一度上がって納涼台に集合して休憩。その後、再度川に入って生きものを採取し、納涼台で解説を受けながら観察した。22種を確認することができ、水質がとても良好であることが確認できた。また、周りの森林が水を育てていることを実感する機会となった。



11/12 ミツマタ植林



8/24 石手川の生きもの観察会

(4)学習会「森林のリアルとポテンシャル ～いろんな視点から地域の森林を捉えよう～」

【日 時】令和6年12月8日(日)13:00～16:00

【会 場】えひめ森林公園(伊予市)研修室

【運 営】当団体4名

【参加者】34名(運営者含む)

【内 容】

●講演「愛媛の森をみんなでモリアゲよう！」

長野麻子氏(株式会社モリアゲ代表)

●事例報告「伐採から製材、建築へ山から生み出す新たな流れ」

森本英章氏(杣-ウッズ代表、木こり)

●意見交換・交流

森林に何らかの接点のある方々を対象に森林の多面的機能、木材等の活用の魅力的な事例、森林資源活用を支援する施策など、最新の知見を共有し、「どういう森林にしていきたいか」をイメージする機会として企画・実施した。全国的に森林や木材の利用を推進するためのアドバイスを展開している講師を招聘することができ、県内各所の森林の活用について関心のある方々の参加を得た。

意見交換・交流の時間は、参加者全員が自己紹介を行い、講演および事例報告に対する質疑応答の後、国産材・地域材の利用促進について意見交換を行った。



12/8 森林のリアルとポテンシャル



意見交換・交流は車座で

4.「訪ねたくなる水源の森・里づくり」

(2)ミツマタ植林

【日 時】令和6年11月12日(火)10:30～15:00

【場 所】日浦地区 水口集会所、森林、竹林、耕作放棄地

【講 師】豊田信行氏(森林環境管理学リカレントプログラム講師)

【参加者】松野氏(里山歩こう会)、当団体関係者7名

ミツマタ植林の場所として想定していたスギ林は、間伐作業の時期が確定しないことから、耕作放棄地となっている畑に所有者の了解を得て行った。実施にあたっては講師を招聘し、ミツマタ植林と森林整備の考え方と技術指導、竹林の拡大防止方法などについて受講した。その後、日浦地区内で竹林をクヌギ林に転換した場所を視察し、ミツマタの苗木80cm4本、30cm8本を植林した。



7/5 ヒメユリの苗



7/17 苗を鉢に移植

(3)石手川上流 川の生きもの観察会

【日 時】令和6年8月24日(土)10:00～12:00

【場 所】日浦公民館集合～東川町納涼台周辺の石手川

【講 師】松田久司氏

(かわうそ復活プロジェクト、愛媛県環境マイスター)

【運 営】松野氏(里山歩こう会)、当団体3名、愛大理学部生2名

【参加者】27名(運営者含む)

実施要領・注意事項の説明の後に川に入り、生きもの探しを行った。川から一度上がって納涼台に集合して休憩。その後、再度川に入って生きものを採取し、納涼台で解説を受けながら観察した。22種を確認することができ、水質がとても良好であることが確認できた。また、周りの森林が水を育てていることを実感する機会となった。



11/12 ミツマタ植林



8/24 石手川の生きもの観察会

(4)学習会「森林のリアルとポテンシャル ～いろんな視点から地域の森林を捉えよう～」

【日 時】令和6年12月8日(日)13:00～16:00

【会 場】えひめ森林公園(伊予市)研修室

【運 営】当団体4名

【参加者】34名(運営者含む)

【内 容】

●講演「愛媛の森をみんなでモリアゲよう！」

長野麻子氏(株式会社モリアゲ代表)

●事例報告「伐採から製材、建築へ山から生み出す新たな流れ」

森本英章氏(杣-ウッズ代表、木こり)

●意見交換・交流

森林に何らかの接点のある方々を対象に森林の多面的機能、木材等の活用の魅力的な事例、森林資源活用を支援する施策など、最新の知見を共有し、「どういう森林にしていきたいか」をイメージする機会として企画・実施した。全国的に森林や木材の利用を推進するためのアドバイスを展開している講師を招聘することができ、県内各所の森林の活用について関心のある方々の参加を得た。

意見交換・交流の時間は、参加者全員が自己紹介を行い、講演および事例報告に対する質疑応答の後、国産材・地域材の利用促進について意見交換を行った。



12/8 森林のリアルとポテンシャル



意見交換・交流は車座で

5. 「愛媛・南予の急傾斜地農業システム」農業生物多様性等調査・研究業務

「愛媛・南予の柑橘農業システム」は2019年度に日本農業遺産に認定されている。2022年度に愛媛県は世界農業遺産を申請したが国内審査で不採択となった。そこで、「宇和海沿岸の急傾斜地における農業と漁業が育んだ景観形成・保全システム」として構成を変えて、2026年度に再度申請する方針となり、愛媛県農政課より、当団体に対して2023年度に引き続き2024年度も、宇和沿岸の急傾斜地石積み農業の農業生物多様性の有効性ならびに、同農業の歴史と沿岸漁業との関係等について基礎的資料の作成が委託された。調査員は宮本春樹、橋越清一、徳岡良則、松井宏光の4名である。

調査研究の結果は報告書として提出したが、その項目は以下のとおりである。

① 宇和海沿岸における柑橘園・海面養殖場分布図(試案)(宮本春樹)

② 愛媛みかん発祥地吉田町立間白井谷調査(宮本春樹)

③ ふれあい魚ッティング視察報告

④ 気候と地形に応じた宇和海の柑橘栽培(宮本春樹)

⑤ 宇和海の石垣集落(宮本春樹)

⑥ 狩浜の石灰岩石積みシステム(宮本春樹)

⑦ 愛南町外泊「石垣の里」調査報告(宮本春樹)

⑧ 魚つき保安林の文献調査(宮本春樹)

⑨ 宇和海沿岸の風土(宮本春樹)

⑩ 令和8年世界農業遺産申請書(案)(宮本春樹)

⑪ 狩浜(西予市明浜町)における鳥類調査報告2024(橋越清一)

(概要)サシバは繁殖や幼鳥(写真)が確認できた。ノスリやハイタカは狩りの様子が記録された。その他、ミゾゴイ、ハチクマ、クマタカ、オオタカ、ハヤブサなどを記録され、狩浜地区のミカン園地の生物多様性の豊かさを示すものとなった。

⑫ 由良半島における鳥類調査報告2024秋(橋越清一)

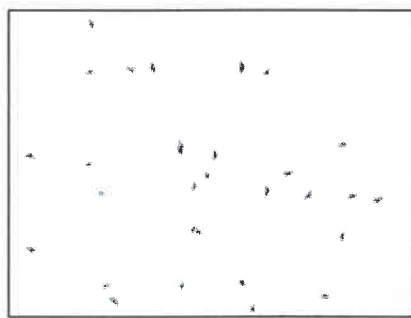
(概要)9月～10月の16日間にわたる定点調査で、60種の鳥類を記録し、サシバ、ハチクマ、ノスリなどタカ類、ヒヨドリやソウシチョウなどの渡りが記録された。サシバなどタカ類は由良半島の急傾斜地の斜面上昇流を利用して高度を上げて効率的に渡ることができるといえる。

⑬ Stone retaining walls serve as refugia for diverse life-forms and threatened plant species in a coastal orchard landscape in western Japan(徳岡良則)

(概要)石積み擁壁には多様な植物群集が形成されている。また着生シダを含む7種の希少種(ヒメウラジロ、イヌノフグリ、ツメレンゲなど)が確認され、石積み擁壁の生態学的重要性が明らかとなった。これらの擁壁は、多様な生息環境に適応した植物種の避難場所として機能する独特のマイクロハビタットを提供している。



サシバの幼鳥



タカ柱



ヒメウラジロ

6. その他必要とする事業

■風早にぎわいレトロまつり出店

【日 時】令和6年10月27日(日)9:30～15:00

【会 場】河野別府公園

動物フィギュアを使ったジオラマ、植物のハーバリウム、キャラクターどんぐり、リアルトンボ・蝶、木の実標本額縁など、自然素材を使ったクラフづくりを提供、いずれも好評であった。



■松山総合公園賑わい創出事業の実施

松山市公園課から依頼を受け、総合公園にて3回にわたり「生き物ふれあい教室」を実施した。



7/28 夏の昆虫編



9/29 秋の鳴く虫編



11/3 森の工作教室

Ⅲ. 組織運営

1. 意思決定

事業の企画申請にあたっては、各事業に関係する会員が打ち合わせを行った。2024年が初めてのケースとなった、松山自然環境イベント等業務は5回実施したが、(株)イーエーシー担当者とは、Zoomによるオンラインで打合せを行い、当日スケジュールや役割分担を円滑に行うことができた。

4月11日と9月13日に理事会を開催し、事業計画ならびに松山市自然環境イベント業務の応礼についての検討、各事業の進捗の情報共有などを行った。

2. 情報発信

【イベント情報】

HPにおいて、「サイエンスカフェえひめ」(3回)、「石手川上流域 川の生きもの観察会」「森林のリアルとポテンシャル」の告知を行った。同内容はfbにも掲載した。また、チラシを作成し、関係者が手配りする他、まつやまNPOサポートセンター、愛媛県生涯学習センターなどに設置した。

【生きものごよみ】

生きものの活動を紹介することにより、その生態や生態系に興味を持ち、季節の変化を感じてもらう目的で発信を行っている。

■掲載回数

生きものごよみ	149
サイエンスカフェ	3
イベント情報 (SC以外)	2
その他 (今治市環境保全功労者表彰受賞)	1
Fbによる告知等	5

3. 令和6年度今治市 環境保全功労者表彰を受賞

「地域、学校、企業が連携し、織田ヶ浜海岸の海岸清掃活動をはじめウンランなどの希少植物等の保護活動を通じ、環境行政の推進に貢献されている」という内容で、今治市より環境保全功労者表彰(団体等)をいただきました。



令和7(2025)年度 事業計画書

1. オオキトンボ保全プロジェクト

オオキトンボを里地の生物多様性のシンボルと位置付け、2016年度より松山市北条地域において、本種の調査・保全活動を行っている。2022年度で地球環境基金の助成金が終了したことに伴い、2023～2024年度は調査規模を縮小しているが、昨年度もマスカミ等からもオオキトンボについて取材を受けるなど、認知度は高まってきている。調査による発生状況の把握と、小学校との授業を継続するとともに、ため池管理者に対し、本種生息に必要な環境を創出する水管理を維持していただけるよう、説明を行う。水位記録は調査の際に貯水状況を撮影し、グラフを作成する。

【活動1】調査

オオキトンボ発生を中心となっている田村池において羽化殻調査を実施する。調査区を例年同様に設定し、6月中旬～8月下旬まで調査を行い、ため池への貯水開始のタイミングと羽化数の関連を検討する。本種が安定して発生している他のため池については、適宜発生状況を把握する。

同じく田村池において、9月中旬～11月、産卵に飛来する成虫の数を把握する産卵調査を例年同様の方法で実施する。

【活動2】教育・啓発活動

河野小学校の3年生を対象に、7月11日に幼虫および羽化の観察、10月に産卵の観察を授業に位置付けて実施する。

【活動3】ため池管理者との関係維持

年に2回行われる田村池の草刈りに、タイミングが可能であれば参加する。また、2～3月にため池管理者に対し、本種の発生状況について説明し、春の貯水開始および秋の落水開始について、本種の生息に寄与する適切なタイミングを説明し、協力を依頼する。

2. サイエンスカフェえひめ

任意団体として発足した2013年度から開催しており、本年度はすでに5月13日、第45回「絵本作画のための昆虫観察日記」(講師: 舘野鴻氏(画家・絵本作家))を開催した。引き続き3～4月に1回のペースで、愛媛大学ミュージアムの後援を得て、主に愛媛大学内を会場に開催するが、講師の都合など必要に応じてZoomによるオンライン開催も検討する。

3. 松山市自然環境イベント等業務

松山市の自然環境イベント等業務を(株)イーエーシーが受託し、10回程度のイベント実施を計画しており、当団体は5回分について野外活動の企画と講師・運営を依頼されている。昨年の実施を踏まえながら、開催地や内容を検討して企画・運営する。また、生きもの関係のInstagram記事・写真提供、りっくるだよりの原稿作成も本業務の一環として担当する。

実施日	内容	場所	定員
6/15(土)	新緑の湧ヶ淵公園自然探検!	湧ヶ淵公園	親子をはじめとする20名程度
8/2(土)	ライトトラップ昆虫観察会	松山市野外活動センター	
10～11月	未定 オオキトンボの産卵観察会	ふるさと館、田村池	
1～2月	未定 道後公園で野鳥観察!	道後公園、子規博物館	
3月	未定 野草を味わう春散歩	日浦地区、水口集会所	

4. 「訪ねたくなる水源の森・里づくり(松山市日浦地区)」

昨年度より松山市日浦地区における活動を開始した。2025年度も同様に「三浦保」愛基金の申請を行っており、以下の活動を計画している。

【活動1】ヒメユリ保全活動

日浦中学校がヒメユリ(愛媛県カテゴリー絶滅危惧IB類)の保全活動に取り組んできたが、栽培のノウハウが継承されず、生育が心配な状況であった。昨年度より同校と地元NPO「里山ひうら」(里山歩こう会)とともに種まき～育苗を行っている。昨年度育苗した2年目の苗を栽培するとともに、本年度も種まきを行って苗を増やす。公民館や地域の方々にも声をかけて、地域の担い手を獲得も目指す。

【活動2】ミツマタ等を植林

昨年11月、耕作放棄地にミツマタ12株を植林した。3月に開花して順調に生育していることから、本年度も同規模の植林を行う。地元NPO「里山ひうら」が散策道の整備を進めており、植林した場所もルートに入れてもらうなど、里山の魅力の一つとなるように取り組んでいく。ミツマタはシカの食害がないこと、春先の花が美しいこと、将来的には和紙の材料となることから選定した。

【活動3】石手川上流生きもの調査、ミニ図鑑の作成

日浦地区には石手川ダムの水源となる石手川が中心部を流れているため、昨年度は水生生物をテーマとした自然観察と調査を実施した。本年度は調査を継続するとともに、川の生きものを解説するミニ図鑑を作成し、来年度以降の観察会に活用する。

【活動4】水源の森エコツアーの開催

同地区福見川町において、市天然記念物である巨樹「三本杉」および、アカガシを訪ねるエコツアーを企画し、参加者を募って水源の森の魅力や課題を体感し、保全について考える機会づくりを行う。11月実施を想定。

【活動5】先進地視察

日浦地区における将来的な自然環境保全と環境教育の機会創出について、当団体ならびに「里山ひうら」などの関係者と検討するにあたり、先進的な取組の現場を訪問する。視察先の候補としては、市民を対象に森林と水辺の環境において自然体験の機会を提供しており、フィールドの保全に地域の方々とともに取り組んでいる、特定非営利活動法人ひろしま自然学校を想定している。9月実施を目指して日程調整中。

5. 「愛媛・南予の急傾斜地農業システム」農業生物多様性等調査・研究業務

愛媛県農政課から、南予の海に面した急傾斜地農業を世界農業遺産に申請するための調査および申請書担当部分作成業務を受託し、昨年度と同様のメンバー(宮本春樹氏(民俗・文化)、橋越、徳岡氏(愛大)、松井)が担当して進める。

6. その他必要とする事業

■「松山・北条・中島合併20周年 北条鹿島にぎわいまつり」参加

オオキトンボ保全プロジェクトのフィールドである、北条地域のまつりに出店する。

例年10～11月に開催されていた「風早にぎわいレトロまつり」が、風早地域の魅力である自然(島、海、山など)をメインテーマとしたイベントにリニューアルされ、本年度は7月21日(月・祝)にJR伊予北条駅前～鹿島で開催される。

出店内容は、昨年度までと同様に、自然素材を使ったクラフトづくりを予定。

決 算 報 告 書

第 6期

自 令和6年 4月 1日

至 令和7年 3月31日

特定非営利活動法人森からつづく道

愛媛県松山市鉄砲町1-7

活 動 計 算 書

[税込] (単位: 円)

特定非営利活動法人森からつづく道

自 令和6年 4月 1日 至 令和7年 3月31日

【経常収益】

【受取会費】

正会員受取会費 27,000

【受取助成金等】

受取助成金 350,000

【事業収益】

自主事業収益 13,300

受託事業収益 1,635,672 1,648,972

【その他収益】

受取 利息 431

雑 収 益 36,524 36,955

経常収益 計

2,062,927

【経常費用】

【事業費】

(人件費)

給料 手当(事業) 991,850

人件費計 991,850

(その他経費)

諸 謝 金 310,000

印刷製本費(事業) 16,126

旅費交通費(事業) 289,795

通信運搬費(事業) 1,960

消耗品 費(事業) 82,101

借 損 料(事業) 27,900

役 務 費(事業) 99,297

保 険 料(事業) 1,395

雑 費(事業) 140,136

その他経費計 968,710

事業費 計

1,960,560

【管理費】

(人件費)

給料 手当 0

人件費計 0

(その他経費)

旅費交通費 0

通信運搬費 0

消耗品 費 0

借 損 料 6,000

租税 公課 0

雑 費 42,750

その他経費計

48,750

管理費 計

48,750

経常費用 計

2,009,310

当期経常増減額

53,617

【経常外収益】

経常外収益 計

0

【経常外費用】

経常外費用 計

0

税引前当期正味財産増減額

53,617

当期正味財産増減額

53,617

前期繰越正味財産額

1,644,861

次期繰越正味財産額

1,698,478

貸借対照表

特定非営利活動法人森からつづく道
全事業所

【税込】(単位:円)
令和7年 3月31日 現在

《資産の部》			
【流動資産】			
(現金・預金)			
現金	5,093		
普通預金	1,652,483		
現金・預金計	1,657,576		
(売上債権)			
未収金	92,602		
売上債権計	92,602		
流動資産合計		1,750,178	
資産合計			1,750,178
《負債の部》			
【流動負債】			
未払金	51,700		
短期借入金	0		
預り金	0		
流動負債合計		51,700	
負債合計			51,700
《正味財産の部》			
前期繰越正味財産		1,644,861	
当期正味財産増減額		53,617	
正味財産合計			1,698,478
負債及び正味財産合計			1,750,178

財 産 目 録

特定非営利活動法人森からつづく道
全事業所

[税込] (単位 : 円)
令和7年 3月31日 現在

《資産の部》

【流動資産】

(現金・預金)

現 金 5,093

普通 預金 1,652,483

ゆうちょ銀行 (1,072,749)

伊予銀行 (一万支店) (579,734)

現金・預金 計 1,657,576

(売上債権)

未 収 金 92,602

売上債権 計 92,602

流動資産合計 1,750,178

資産合計 1,750,178

《負債の部》

【流動負債】

未 払 金 51,700

短期借入金 0

預 り 金 0

流動負債合計 51,700

負債合計 51,700

正味財産 1,698,478

損 益 計 算 書

特定非営利活動法人森からつづく道

[税込] (単位: 円)

全事業所

自 令和6年 4月 1日 至 令和7年 3月31日

【経常収益】		
【受取会費】		
正会員受取会費	27,000	
【受取助成金等】		
受取助成金	350,000	
【事業収益】		
自主事業収益	13,300	
受託事業収益	1,635,672	
【その他収益】		
受取 利息	431	
雑 収 益	36,524	
経常収益 計		2,062,927
【経常費用】		
【事業費】		
(人件費)		
給料 手当(事業)	991,850	
人件費計	991,850	
(その他経費)		
諸 謝 金	310,000	
印刷製本費(事業)	16,126	
旅費交通費(事業)	289,795	
通信運搬費(事業)	1,960	
消耗品 費(事業)	82,101	
借 損 料(事業)	27,900	
役務費 (事業)	99,297	
保 險 料(事業)	1,395	
雑 費(事業)	140,136	
その他経費計	968,710	
事業費 計		1,960,560
【管理費】		
(人件費)		
給料 手当	0	
人件費計	0	
(その他経費)		
旅費交通費	0	
通信運搬費	0	
消耗品 費	0	
借 損 料	6,000	
租税 公課	0	
雑 費	42,750	
その他経費計	48,750	
管理費 計		48,750
経常費用 計		2,009,310
当期経常増減額		53,617
【経常外収益】		
経常外収益 計		0
【経常外費用】		
経常外費用 計		0
税引前当期正味財産増減額		53,617
当期正味財産増減額		53,617
前期繰越正味財産額		1,644,861
次期繰越正味財産額		1,698,478

財務諸表の注記

特定非営利活動法人森からつづく道

令和7年 3月31日 現在

【重要な会計方針】

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準（2010年7月20日 2017年12月12日最終改正 NPO法人会計基準協議会）によっています。

様式例（法第28条第1項関係）

前事業年度の年間役員名簿

令和6年4月1日から令和7年3月31日まで

特定非営利活動法人森からつづく道

役職名	氏 名	住 所 又 は 居 所	就任期間	報酬を 受けた期
理事	松井 宏光		令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	報酬なし
理事	小澤 潤		令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	報酬なし
理事	黒河 由佳		令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	報酬なし
理事	武智 礼央		令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	報酬なし
理事	豊田 康二		令和6年4月1～ 令和7年3月31日	報酬なし
理事	橋越 清一		令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	報酬なし
監事	大西 憲太郎		令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	報酬なし

（備考）

- 1 用紙の大きさは、日本工業規格A列4番とする。
- 2 「氏名」、「住所又は居所」、「就任期間」、及び「報酬を受けた期間」は、全ての役員について記載する。
- 3 「住所又は居所」の欄には、特定非営利活動促進法施行規則第2条第2項に掲げる書面（住民票等）によって証された住所又は居所を記載する。
- 4 「報酬を受けた期間」の欄には、報酬を受けたことがある役員はその期間を、報酬を受けなかった役員については、「報酬無し」と、それぞれ記載する。

様式例（法第 28 条第 1 項関係）

前事業年度の社員のうち 10 人以上の者の名簿

令和 7 年 3 月 31 日現在

特定非営利活動法人森からつづく道

氏 名	住 所 又 は 居 所
松井 宏光	
小澤 潤	
黒河 由佳	
武智 礼央	
豊田 康二	
橋越 清一	
大西 憲太郎	
菅 則子	
近藤 浩幸	
福岡 豪	

（備考）

- 1 用紙の大きさは、日本工業規格 A 列 4 番とする。
- 2 前事業年度の末日現在における社員のうち 10 人以上の者の氏名及び住所又は居所を記載する。